

航空交通データの収集・整備・提供をする活動について

地球環境を保全しつつ、安全かつ効率的な航空交通を実現することが求められており、国土交通省航空局では 2010 年より我が国の「将来の航空交通システムに関する推進協議会（CARATS 推進協議会）」において、将来の航空交通システムの構築に向けた検討が行われています。

安全で効率的な将来の航空交通システムの構築には研究開発の更なる推進が必要であり、航空機の実運航データが不可欠です。従来、大学等の研究者は、多量の実運航データの入手が困難な状況でした。また、複数の管制システムで座標系が異なり、統一フォーマットが存在しておらず、データの活用には高いハードルがありました。

そこで当研究所は、航空交通管制情報処理システムの統計データを研究開発に利用しやすいフォーマットに変換し、併せて航空機から詳細なデータ項目を収集する航空管制用レーダーシステム（SSR モード S）を開発して、航空交通データの収集・整備・提供をする活動に取り組みました。

本活動により整備した約 150 万機分の実運航データは、CARATS オープンデータとして国土交通省を通じて大学等の研究者に提供され、航空交通データの活用が広まりました。この結果、多数の研究開発が喚起され、航空行政の施策検討への活用や国際民間航空機関の関連文書への掲載など、我が国のプレゼンス向上や国際競争力の強化に寄与することができました。

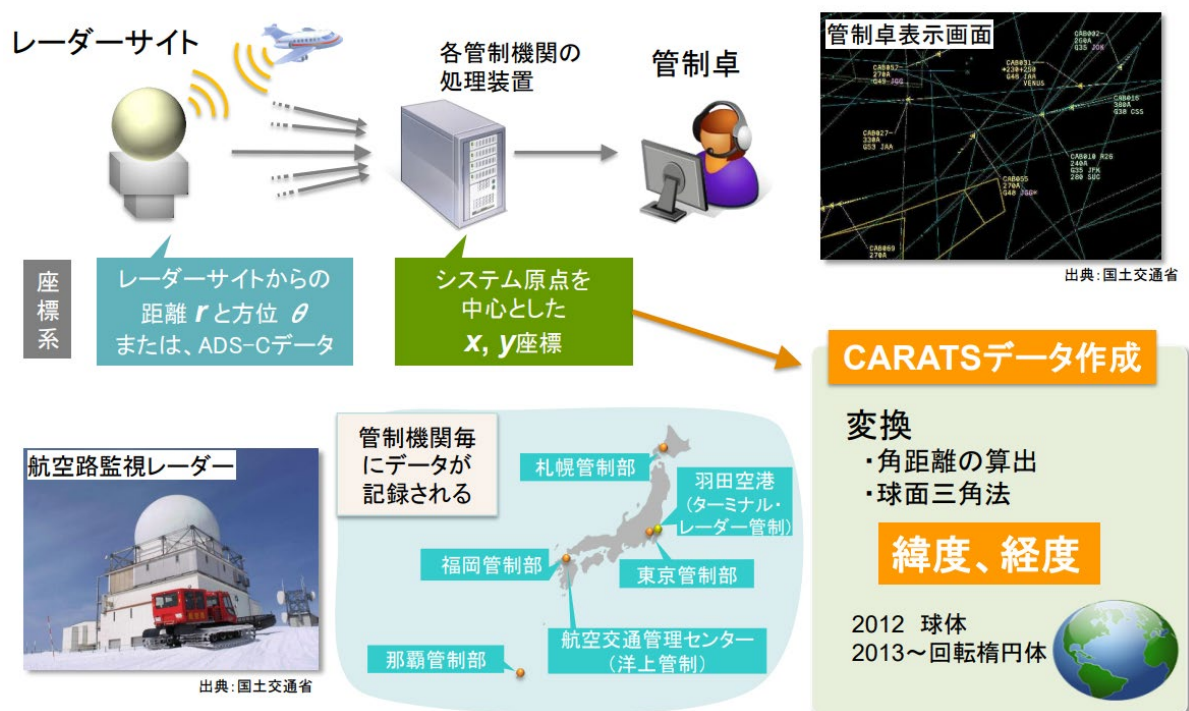


図 CARATS オープンデータの作成方法